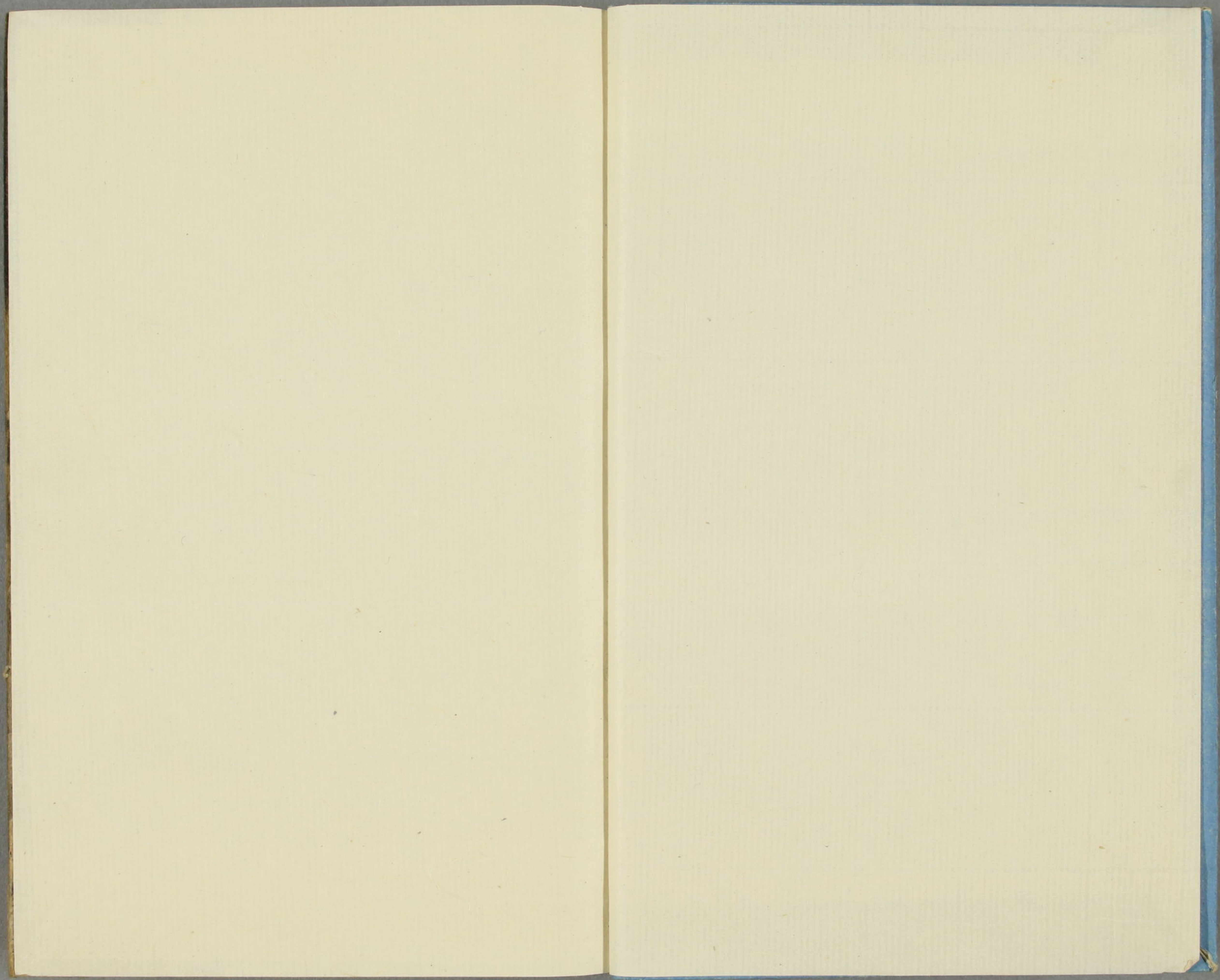




物

上





歌より舞と志原を蒙の詞は林
をより母もあまの阿より舞は六分
まのたんえ天海より舞は八分
たのたんえをらつて心ゆをた
さあそををりたて六分
このまのたんえを
おのまのたんえを
茂志らたれハ
打をたぬ

あつて一祖父者伯つる持る世
うるまぬむのころまみとと徳のあ
ろふ者らさく出れとせし一見す
世に能く新し小冊あまふははる
ころふ傳ふを起をく新く徳友
の持よちりちりよおちるそえそ
にふれそこのけせし書舗の何
手あつらへはるはつる新入や

身うらんとあふ洞のそ維とあ
ちるそ終ふを補ふのそ切破
切破もその天をふれりそおひの
切破新めく己達乃境よつ法死
山口もちる屋敷人やとて棟梁のち案
と名法う法のそ

有賀長收

享和辛酉の終

和歌林麿の塵卷之上目録

春部

春の詞	一	春の詞	一
年内之春	二	若菜	五
鶯	四	梅	七
餘寒		春曙	十
早蕨		春駒	十二
帰雁		櫻	十三
呼子鳥	十五	初花	十六
尋花	十七	朝花	十八
曙花		園花	十九
山花		河花	十九
園花	十九		
		初春	三
		子日	六
		残雪	八
		柳	十一
		春月	十二
		雉子	十三
		花子	十三
		盛花	十三
		夕花	十三
		杜花	十三
		海邊花	十三
		早春	三
		霞	三
		春雪	三
		若草	九
		春雨	九
		雲雀	九
		待花	九
		折花	九
		夜花	九
		野花	九
		湖上花	九

ふくむくあかやめとては

あつと柳あつとふ柳やなきを井杭の柳
花のいろく約竹とては海のやわ花うり
かきもまたるもれ柳かきやなきさ
かきもまたるもれ柳かきやなきさ
柳のいろくさのすき凡のま柳かき
糸乃わう枝の約凡はさき
ろのま柳なり柳柳ひまさ
きくもま柳かきやなきさ
さきぬのま柳かきやなきさ
くまきやなきさ

名所 青柳の杜 里 逢坂關 宇 関比山 布留野 大 蓮
さう 都 春日野 日 梅 さう さいのま 夜高 水 ぼ 蓮
籬島 奥 梅のま 葉 長 加茂川 山 鴨の川 山 大 蓮 青羽川 日 鴨

岩月は 宇治川 日 ちまもす 車 佐保川 大 ちまもす 春の柳

大河の遠 日 みるの 右 廣 込 池 山 城 猿 込 池 大 花 柳

西大寺 和 飛鳥寺 日 都 津 入 相 の 池 沼 花 玉 柳

川のうらぬたふもあつあつひさかしくま柳の糸
しらすむ柳ひさかしくは娘の釣けのすぬれれかき

若草

若草 磯 菜 ことさか ちやかひ 下めくひ 芝 生
まの 様 きらに まむ せいり おひん ことさ
はのくむ 荻 娘 子 路
まのくむ ちのむを ちのま生 ちのま生 ちのま生
まのくむ ちのむを ちのま生 ちのま生 ちのま生
まのくむ ちのむを ちのま生 ちのま生 ちのま生
まのくむ ちのむを ちのま生 ちのま生 ちのま生
まのくむ ちのむを ちのま生 ちのま生 ちのま生

春のあけぼのの光を花の枝を
なごめくらしけりあはれ
のりきむ様を予む

ふゆのけりけりかすしと残る月
あめあめのけりけり
秋もささあはれ

猶月夜ののほのこすむのけりけり
花さきのさき
さきさき

名所 吉野大宮 逢坂関日花 水笠岡近梅 水笠岡近梅 水笠岡近梅
水笠岡近梅 水笠岡近梅 水笠岡近梅 水笠岡近梅

辛崎近折 都日玉 水笠岡近梅 大井川山城
大井川山城 大井川山城 大井川山城 大井川山城

岩井彦根 入日雅 水笠岡近梅 水笠岡近梅 水笠岡近梅
水笠岡近梅 水笠岡近梅 水笠岡近梅 水笠岡近梅

春月

月子心 春のあけぼのの光を花の枝を
なごめくらしけりあはれ

あめあめのけりけりかすしと残る月
あめあめのけりけり
秋もささあはれ

かすしと残る月 花さきのさき
さきさき
さきさき

あけぼのの光を花の枝を
なごめくらしけりあはれ
のりきむ様を予む

ふゆのけりけりかすしと残る月
あめあめのけりけり
秋もささあはれ

猶月夜ののほのこすむのけりけり
花さきのさき
さきさき

春雨

あけぼのの光を花の枝を
なごめくらしけりあはれ
のりきむ様を予む

ふゆのけりけりかすしと残る月
あめあめのけりけり
秋もささあはれ

猶月夜ののほのこすむのけりけり
花さきのさき
さきさき

くさくさいもみぢを 春のを 叶はぬ なるもの
糸のしらす 春のを 春のを 春の
雨のしらす 春のを 春のを 春の
春のを 春のを 春のを 春の

春のを 春のを 春のを 春の
春のを 春のを 春のを 春の

春のを 春のを 春のを 春の

帰雁

今こそ 春のを 春のを 春の

春のを 春のを 春のを 春の
春のを 春のを 春のを 春の
春のを 春のを 春のを 春の
春のを 春のを 春のを 春の

春のを 春のを 春のを 春の

名所 小塩山 山 松のちいさ 大原山 山口 市果 八束川 小野
 片岡山 和 橋 春日野 日 萩の地 宇陀野 日
 三吉野 日 王のえ 常盤里 日
 花友ら社

雲雀
 雲雀の鳴く声は 春の訪れを告げる
 雲雀の鳴く声は 春の訪れを告げる
 雲雀の鳴く声は 春の訪れを告げる

水たぎりのあゝ 旅人の心をつとむ
 水たぎりのあゝ 旅人の心をつとむ
 水たぎりのあゝ 旅人の心をつとむ

名所 吉野山 大里 音根 比叡山 近 高根 飛火野 和 十ん 田原系 池
 飛火野 和 十ん 田原系 池
 飛火野 和 十ん 田原系 池

呼子鳥
 呼子鳥の鳴く声は 春の訪れを告げる
 呼子鳥の鳴く声は 春の訪れを告げる
 呼子鳥の鳴く声は 春の訪れを告げる

名所 吉野 大 谷の原 初瀬山 口 板
 吉野 大 谷の原 初瀬山 口 板
 吉野 大 谷の原 初瀬山 口 板

柳ま栗津浦野杜里吹飯浦和泉写持乃難波浮
杉都寺江冲野三津湊日玉恒の浦後雄島陸舟岩

とさく 淡路島淡山浦雁乃吉大井河山岩園宇治川日松

山里 山吹の原 飛鳥川和寺井蛙都梅布引瀬梅友香の松

廣澤池山つ柳深きれねの八橋表玉柳酒くもてきより

佐野の舟橋野馬田青柳の橋杜里村

櫻後天和少多花の心はならずならず花の心はならずならず通後

花の心はならずならず花の心はならずならず実通

待花 花の心はならずならず花の心はならずならず基源

花の心はならずならず花の心はならずならず花の心はならずならず

花の心はならずならず花の心はならずならず花の心はならずならず

尋花 花の心はならずならず花の心はならずならず花の心はならずならず

花の心はならずならず花の心はならずならず花の心はならずならず

花の心はならずならず花の心はならずならず花の心はならずならず

初花 花の心はならずならず花の心はならずならず花の心はならずならず

花の心はならずならず花の心はならずならず花の心はならずならず

又北川内 岸辺のり 龍門瀧 大丸谷のり 桃園山 山
室生 和 六ヶり

三月 三月廿九日 松林はすむらぎのほろりすむらぎのり

桃花 片集 月夜や園中の柳のむらぎのり

曲水宴 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

燕

ほろりすむらぎのり 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 燕 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 燕 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

董菜

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

三月廿九日 董菜 和 月夜や園中の柳のむらぎのり

武藏野 武 布留野 和 伏見野 山 信太社 和

布留野 和 伏見野 山 信太社 和

伏見野 山 信太社 和

信太社 和

信太社 和

信太社 和

まひのきや
 うのりりや
 とらや
 夕日
 うねと

名所 妹背山 紀伊 細谷川 山田 伊吹山 伊吹山 血 伊吹山 血 伊吹山 血

里 神南備山 和 里 山吹崎 日 山吹川 日 山吹川 日 山吹川 日

宇治 清龍川 日 岸 井手 日 井手 日 井手 日 井手 日 井手 日

日岸 岩間 日 岩間 日 岩間 日 岩間 日 岩間 日 岩間 日

根子 日 根子 日 根子 日 根子 日 根子 日 根子 日

底の 日 底の 日 底の 日 底の 日 底の 日 底の 日

村 伏見 日 伏見 日 伏見 日 伏見 日 伏見 日 伏見 日

里 陸奥 日 陸奥 日 陸奥 日 陸奥 日 陸奥 日 陸奥 日

藤

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ 藤のうけそおさて 藤うえ

残春

六石
残春の白ひのやあぐきのねの月
花の影の
三石
川にぬぬ其の影はうも
川にぬぬ其の影はうも
川にぬぬ其の影はうも

信定
れ考
士は花
雅喬

夏部

夏

ななれえ 夏は日 夏は夜 夏は草 麻てほす 麦のた
ななれえ 夏は日 夏は夜 夏は草 麻てほす 麦のた
ななれえ 夏は日 夏は夜 夏は草 麻てほす 麦のた
ななれえ 夏は日 夏は夜 夏は草 麻てほす 麦のた
ななれえ 夏は日 夏は夜 夏は草 麻てほす 麦のた

首夏

ささきも 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草
ささきも 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草
ささきも 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草
ささきも 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草
ささきも 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草 夏は草

新樹 新竹

うすいさゝかみま 日なほぬ 森のうら びつたふら
 だつたひらた 月なほぬ 森のうら びつたふら
 ねこくす 梅のうら 林のうら びつたふら
 花のゆけ 雲のうら 森のうら びつたふら
 藤のうら 木けこけ ぼつたふら びつたふら
 月新のぬ 木葉のうら 森のうら びつたふら
 ぬいふら 木けこけ 森のうら びつたふら
 えのこくす 木葉のうら 森のうら びつたふら
 ままのうら 木葉のうら 森のうら びつたふら
 木か 木葉のうら 森のうら びつたふら
 新樹 木葉のうら 木葉のうら 森のうら びつたふら
 新竹 木葉のうら 木葉のうら 森のうら びつたふら

卯花

うすいさゝかみま 日なほぬ 森のうら びつたふら
 うすいさゝかみま 日なほぬ 森のうら びつたふら
 世のうら 木葉のうら 森のうら びつたふら
 木か 木葉のうら 森のうら びつたふら
 りのけ 木葉のうら 森のうら びつたふら
 音のうら 木葉のうら 森のうら びつたふら
 うすいさゝかみま 日なほぬ 森のうら びつたふら
 木か 木葉のうら 森のうら びつたふら
 うすいさゝかみま 日なほぬ 森のうら びつたふら
 木か 木葉のうら 森のうら びつたふら
 名所 玉川里 木葉のうら 小野の里 木葉のうら
 山里 木葉のうら 挂乃里 木葉のうら 吉野 木葉のうら
 宇治里 木葉のうら 里のうら 木葉のうら 山 木葉のうら

月もたずぬるのな ぬくのまへ 月もぬる
乃ほんか下を かくたきすの ながハキとく ながせのやみ
こす後たぬい 毎たはけを 月かきにはい 川ぬよぶこい
なすよ川ぬのがを

名所 戸能流 山むの川 大井川 山 名所

魚山 小倉 梅津川 日 若七 桂の里 かつ川 日 大井川

梅津 もすむとを かつ川 日 植は島 日 布子 日 大井川

川 日 吉野川 日 吉野川 日 吉野川 日 吉野川

吉野川 日 吉野川 日 吉野川 日 吉野川

吉野川 日 吉野川 日 吉野川 日 吉野川

照射

こもす大こい男 ますおららちお ぶらをい かり
糸らよ ぶらき山 ぶらき山 ぶらき山 ぶらき山
ぶらき山 ぶらき山 ぶらき山 ぶらき山

火串乃乃月 麻れたらと ちりれ麻 ちりれ麻
ちりれ麻 ちりれ麻 ちりれ麻 ちりれ麻
ちりれ麻 ちりれ麻 ちりれ麻 ちりれ麻
ちりれ麻 ちりれ麻 ちりれ麻 ちりれ麻

名所

小倉山 山 吉野山 日 吉野山 日 吉野山

吉野山 日 吉野山 日 吉野山 日 吉野山

吉野山 日 吉野山 日 吉野山 日 吉野山

吉野山 日 吉野山 日 吉野山 日 吉野山

吉野山 日 吉野山 日 吉野山 日 吉野山

吉野山 日 吉野山 日 吉野山 日 吉野山

吉野山 日 吉野山 日 吉野山 日 吉野山
吉野山 日 吉野山 日 吉野山 日 吉野山

名所

つけの

住持寺持持の持りけりゆ及由成中居る之故に名所の者

大宇の岸

けりけり春日山

大宇の岸

谷の岸

宇陀野

大宇

一の地

一の地

一の地

一の地

一の地

一の地

一の地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

ねの地

百合

つゆの美

つゆの美

つゆの美

つゆの美

つゆの美

つゆの美

つゆの美

名所

つゆの美

つゆの美

つゆの美

つゆの美

つゆの美

つゆの美

野の濱

野の濱

野の濱

野の濱

野の濱

野の濱

野の濱

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

夕立

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

音の美

蝉

^{九雅} 川の遠の乳に... ^{五集} 蝉の...
 蝉の... 通打

春もきすすむせし... 秋での多友か...
 夕方のけほろあ... 秋での多友か...
 夕方のけほろあ... 秋での多友か...

名所 高雄山 ^山 片園の社 ^日

扇 かの川 ^和 本芳の川 ^信 風趣の嶺 ^日

かの川 ^和 本芳の川 ^信 風趣の嶺 ^日

調

神宮の終極 三月のなやみ 海にまゝのめが 夕日とあつね
 川まじり 目とめが 海にまじり 夕日とあつね
 草の草の ならぬが 夕日とあつね
 夕日とあつね 夕日とあつね 夕日とあつね

夕日とあつね 夕日とあつね 夕日とあつね

名所 小倉山 山 いこちの太 大江山 丹 夕日とあつね 山 夕日とあつね

夏後 六月後 荒和後 名越後

夕日とあつね 夕日とあつね 夕日とあつね

夕日とあつね 夕日とあつね 夕日とあつね

六月後 六月後 六月後

荒和後 荒和後 荒和後

名越後ハ津波ノ事トモトモ又及後ノ事トモトモ

名所

川ノ杜あまのこ

たすの杜山 川

川あまのこ

わろは

たすの杜山

田兼島

日麻あ

揚の 山

住の 杜あ

あまのこ

揚の 山

神の 杜あ

あまのこ

揚の 山

宮の 杜あ

あまのこ

揚の 山

夏の 杜あ

あまのこ

揚の 山

有の 杜あ

あまのこ

揚の 山

荒の 杜あ

あまのこ

揚の 山

名越後

あまのこ

揚の 山

川の 杜あ

あまのこ

揚の 山

田の 杜あ

あまのこ

揚の 山

住の 杜あ

あまのこ

揚の 山

名越後

あまのこ

秋部

秋

秋の神 人の秋 秋の夜 秋の夕
 秋の夜 秋の夕 秋の神 人の秋
 秋の夜 秋の夕 秋の神 人の秋
 秋の夜 秋の夕 秋の神 人の秋

立秋 早秋 初秋 新秋 早涼

秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月
 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月
 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月
 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月

秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月
 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月
 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月
 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月 秋の夕月

名所 五田山 音羽山 けむれ社 高野
 吹上の瀧 伊予 高野 高野

早秋

早秋 早秋 早秋 早秋 早秋 早秋
 早秋 早秋 早秋 早秋 早秋 早秋
 早秋 早秋 早秋 早秋 早秋 早秋
 早秋 早秋 早秋 早秋 早秋 早秋

通村 佐藤 住村 佐藤

初秋

秋の夕べに
 夕陽の影に
 夕風を
 夕空に
 夕雲を
 夕霞を
 夕霧を
 夕雨を
 夕露を
 夕霜を
 夕雪を
 夕氷を
 夕雪を
 夕氷を

新秋

早涼

残暑

七夕

あけぼの
 朝霧
 朝露
 朝風
 朝雲
 朝霞
 朝霧
 朝雨
 朝露
 朝霜
 朝雪
 朝氷

早朝の
 朝霧
 朝露
 朝風
 朝雲
 朝霞
 朝霧
 朝雨
 朝露
 朝霜
 朝雪
 朝氷

秋の里 常陸 十市の山野 和

秋の里 常陸 十市の山野 和

女即花

花のよみ 風をうらむ 花のよみ 風をうらむ 花のよみ 風をうらむ 花のよみ 風をうらむ

秋の里 常陸 十市の山野 秋の里 常陸 十市の山野 秋の里 常陸 十市の山野

白鹿の里

名所 男山 山城 老の坂 伏見の野 日

名所 男山 山城 老の坂 伏見の野 日

名所 男山 山城 老の坂 伏見の野 日

名所 男山 山城 老の坂 伏見の野 日

名所 男山 山城 老の坂 伏見の野 日

名所 男山 山城 老の坂 伏見の野 日

薄

薄の野 和 白鹿の里 伏見の野 日

白の尾む 蔭と如く 秋風の石 月がまら 露の結凡
 中野の山 尾花の度 袖のふれ 道ゆき 秋の結凡
 月乃のて 秋の結凡 中野の山 露の結凡 月乃のて
 本すけ 秋の結凡 中野の山 露の結凡 月乃のて

白の尾む 蔭と如く 秋風の石 月がまら 露の結凡
 中野の山 尾花の度 袖のふれ 道ゆき 秋の結凡
 月乃のて 秋の結凡 中野の山 露の結凡 月乃のて
 本すけ 秋の結凡 中野の山 露の結凡 月乃のて

名所

達坂山 近 志のすま 著 麻 猿 狐 寺 井 系 川のせ
 心子の園 和 大 著 劉 萱 秋 小 藤 系 谷 あり 川 忍 の 岳 力 麻 井 系
 杜あめの大野 和 大 著 秋 葛 甘 柿 じ り 麻 ね 虫 須 磨 の 上 野 村
 浦後 園 合 細 注 芳 野 川 和 大 谷 沙 里 地 獄 五 郎 八 十 二 宮 合 近
 麻 あり 著 秋 あり 著 注 麻

刈萱

刈萱 あり 著 注 麻
 刈萱 あり 著 注 麻
 刈萱 あり 著 注 麻

あれうら ぼよあ 下ま

萱う下系 ありう 宇ほえが 未あう 秋の結凡

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

蘭

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

あれうら ぼよあ 下ま

松虫

松の葉を食する虫の一種也。其の食する葉は枯れ、松の生長を妨ぐ。其の幼虫は丸く、黄白色、頭部は黒く、脚は短く、葉の裏に潜る。其の成虫は蛾、翅は透明、脚は長く、葉の裏に潜る。其の幼虫は丸く、黄白色、頭部は黒く、脚は短く、葉の裏に潜る。其の成虫は蛾、翅は透明、脚は長く、葉の裏に潜る。

鈴虫

鈴の形をなす虫の一種也。其の幼虫は鈴の形をなす、黄白色、頭部は黒く、脚は短く、葉の裏に潜る。其の成虫は蛾、翅は透明、脚は長く、葉の裏に潜る。

蚕

桑の葉を食する虫の一種也。其の幼虫は丸く、黄白色、頭部は黒く、脚は短く、桑の葉の裏に潜る。其の成虫は蛾、翅は透明、脚は長く、桑の葉の裏に潜る。

促織

促織の一種也。其の幼虫は丸く、黄白色、頭部は黒く、脚は短く、葉の裏に潜る。其の成虫は蛾、翅は透明、脚は長く、葉の裏に潜る。

鹿

鹿の一種也。其の幼虫は丸く、黄白色、頭部は黒く、脚は短く、葉の裏に潜る。其の成虫は蛾、翅は透明、脚は長く、葉の裏に潜る。

鹿の一種也。其の幼虫は丸く、黄白色、頭部は黒く、脚は短く、葉の裏に潜る。其の成虫は蛾、翅は透明、脚は長く、葉の裏に潜る。

名所

名山 推の下葉 松の葉 小倉山 水堂の園 宮城野 明石浦 磨 猪名 湊 田

秋夕

秋乃暮 山へく 身し心 秋宵く 身何ぞ
 秋のかりい 身し心 秋宵く 身何ぞ
 乃より氣 身し心 秋宵く 身何ぞ
 神のまゝ 身し心 秋宵く 身何ぞ
 なるふき 身し心 秋宵く 身何ぞ
 神あすす 身し心 秋宵く 身何ぞ
 秋のかりい 身し心 秋宵く 身何ぞ
 乃より氣 身し心 秋宵く 身何ぞ
 神のまゝ 身し心 秋宵く 身何ぞ
 なるふき 身し心 秋宵く 身何ぞ
 神あすす 身し心 秋宵く 身何ぞ

秋乃暮 山へく 身し心 秋宵く 身何ぞ

秋のかりい 身し心 秋宵く 身何ぞ

乃より氣 身し心 秋宵く 身何ぞ

神のまゝ 身し心 秋宵く 身何ぞ

なるふき 身し心 秋宵く 身何ぞ

神あすす 身し心 秋宵く 身何ぞ

秋のかりい 身し心 秋宵く 身何ぞ

乃より氣 身し心 秋宵く 身何ぞ

神のまゝ 身し心 秋宵く 身何ぞ

なるふき 身し心 秋宵く 身何ぞ

神あすす 身し心 秋宵く 身何ぞ

秋のかりい 身し心 秋宵く 身何ぞ

乃より氣 身し心 秋宵く 身何ぞ

神のまゝ 身し心 秋宵く 身何ぞ

なるふき 身し心 秋宵く 身何ぞ

神あすす 身し心 秋宵く 身何ぞ

稻妻

稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の
 稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の

稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の

稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の

稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の

稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の

稲妻 言野山 和田山 初内山 和山 大島 津の

叶くさすてし格毒

おもにちぢけり 夕日ぬきよ きりぬき 秋の骨こ

揃毒の夫ぢけり しほのすぢけり 新やうぢけり こぢけり

ちぢけりぬき ちぢけりぬき きりぬき

名所 草城山 和 きりぬき

山 山のぬきぬき しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき はま

雁

友より 友より しほのすぢけり ちぢけりぬき

りいつし しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

神ふらう しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

南うら しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

たらの しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

やうい しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

きりぬき しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

ちぢけり しほのすぢけり ちぢけりぬき きりぬき

伊井 かのらの原 姨捨山 信濃 三十三丁 入佐山 但馬
 あのかん山 大峰 麻 有明山 信濃 麻 社 信濃 麻 秋風 池川 里 宮城野 陸
 不破関 長十丁 田山 麻 伏見の小田 日野 麻 山井 宇治橋 日野 麻
 杉子 山川 故敷 里 久之米の岩橋 和 早瀬 津 飛鳥川 日野 麻
 初瀬川 日野 麻 明石浦 麻 玉津島 伊豆 麻 床の浦 近江
 松浦 肥前 中浦川 麻 真野浦 日野 麻 入出

三日月

西へ見えぬ ひる月の海 糸の月の夜 今さらきこ 西へ見えぬ
 中を見せぬ くらを夜いひてん

夕月

夕月の夜 西へ見えぬ
 月 廿四丁 の船 廿四丁 の穴 廿四丁 の穴

今月

今月 廿四丁 入見 廿四丁 の月 廿四丁 の月

中秋の月

Mid-Autumn Moon (Handwritten Japanese text)

十六夜月

Shikunetsu no Tsuki (Handwritten Japanese text)

立待月

Tatematsu no Tsuki (Handwritten Japanese text)

待月の

Matsu no Tsuki (Handwritten Japanese text)

君待月

Kimidatsu no Tsuki (Handwritten Japanese text)

卧待月

Idomatsu no Tsuki (Handwritten Japanese text)

序

序 (Handwritten Japanese text)

廿日月

Joju no Tsuki (Handwritten Japanese text)

号作の

号作の (Handwritten Japanese text)

在明月

Zaiming no Tsuki (Handwritten Japanese text)

在明月 (Handwritten Japanese text)

のうらなひのきりぎりす

^秋秋の夕暮ほろろと月がうつろふきりぎりすのうらなひ ^{後成}

停午月

西の空に雲の影も水底も残さず月がうつろふきりぎりす ^{後成}

新月

秋の夕暮ほろろと月がうつろふきりぎりす ^{後成}

残月

のうらなひのきりぎりす

八月十五夜

みくもなき月 ^秋 ^{後成}

九月十夜

あつた月 ^秋 ^{後成}

あつた月 ^秋 ^{後成}

江月

みよき

みよき

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

江月

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

江月

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

あつめ

他月

あつめ

あつめ

底まきあ、地むらや、新築すいひの心、くまひ月夜ひす、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、

海邊月

あつめ

あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、
あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、

海老やせきとつら白はよきし日のか
集 興村

潮
 こけりて てるまぬら ことばをわめしう 西の河
 こけりて てるまぬら ことばをわめしう 西の河

駒
集 八月十五日より廿日まで 湯方のねいより あり 桐箱又八巻をいりさるるて
 雑章

ひくわひく人 乾く心 たちあ
 八月十五日より廿日まで 湯方のねいより あり 桐箱又八巻をいりさるるて

甲斐の馬 屋から約 八月廿日 信濃 ともとの馬 芝井
 徳信のね 甲斐 松田園の

安達のこと 芝井
 徳信のね 甲斐 松田園の

やののたよ せがめむ ちののり ちののり

まののちが せがめむ ちののり ちののり

野分
 せがめむ ちののり ちののり

のちが せがめむ ちののり ちののり

今が せがめむ ちののり ちののり

国が せがめむ ちののり ちののり

持衣
 せがめむ ちののり ちののり

ちののり ちののり ちののり

野川海沖浦 伏見山力ち 彦茅里 山野田 彦茅里

鷄

多うくれまなねやまの藤
あつたてけり 身も心も
かまゆの系 田中
尾のきり 尾のきり
ふれあふ 秋と
名所 康の山
村以 宇治 本橋
彦茅 彦茅 彦茅
伏見 山里 山
大京 日

又大京 日 熊 独の法 申 真野

入江

信定 彦茅 彦茅 彦茅

葛

あつたてけり 身も心も
かまゆの系 田中
尾のきり 尾のきり
ふれあふ 秋と
名所 康の山
村以 宇治 本橋
彦茅 彦茅 彦茅
伏見 山里 山
大京 日

菊 淡くすくすく 白く黄く花の形 吹く風の香 梅より菊の物ぞ
 きくかの老をせ 菊の香に白の菊 入るの香は 白く黄く花の形
 吹く風の香は 菊の香に白の菊 入るの香は 白く黄く花の形
 世はあまの秋は 菊の香に白の菊 入るの香は 白く黄く花の形
 九八陽の菊は 菊の香に白の菊 入るの香は 白く黄く花の形
 長き菊の香は 菊の香に白の菊 入るの香は 白く黄く花の形
 菊の香に白の菊 入るの香は 白く黄く花の形
 菊の香に白の菊 入るの香は 白く黄く花の形

名所 實平は菊合十所 水干瀬 大足 山鹿
 保川 吹飯 田舎 佐
 逢坂 網代の溪 伊賀 伊賀
 菊 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は

九月 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は
 重陽宴 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は
 紅葉 柘 蓼

あかぢはうす 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は
 や一ののち 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は
 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は
 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は
 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は
 菊の香は 菊の香は 菊の香は 菊の香は

暮秋

修乃松
上中

しんがらあまのうらみはなほかきつたのうらみ

あふ

九月盡

生松
天和

うらみはなほかきつたのうらみはなほかきつたのうらみ

資藤

あうがねのうらみはなほかきつたのうらみはなほかきつたのうらみ

通村

冬

冬部

あじ かなき夜 かなき夜 かなき夜 かなき夜

あじり ころ冬 ちか出 風かゆ

あじ明夜の せしるるの 夕さうけ

初冬

痛むまおろり けさの けさの けさの けさの

あじりま ころ冬 かなき夜 かなき夜 かなき夜

あじりま ころ冬 かなき夜 かなき夜 かなき夜

あじりま ころ冬 かなき夜 かなき夜 かなき夜

あじりま ころ冬 かなき夜 かなき夜 かなき夜

あじりま ころ冬 かなき夜 かなき夜 かなき夜

あじりま ころ冬 かなき夜 かなき夜 かなき夜

あじりま ころ冬 かなき夜 かなき夜 かなき夜

名所

音羽山山あり

嵐山日らに

のこの山

其外野山海川いづもの名ありとも

千載

古集

のまき今も表れぬ中よりきやまの山

大徳寺
右下

時雨

冬雨

いづれか村のむすむすの山ありとも

つらね 横一れ ちねれ つらね 夕一れ ちねれ

つらね ちねれ 村一れ ちねれ

ちねれ ちねれ ちねれ ちねれ

ちねれ ちねれ ちねれ ちねれ

ちねれ ちねれ ちねれ ちねれ

ちねれ ちねれ ちねれ ちねれ

ちねれ ちねれ ちねれ ちねれ

ちねれ ちねれ ちねれ ちねれ

ちねれ ちねれ ちねれ ちねれ

神まつり

名所

かしの山

いとま山

あめの神

大ねの山

龍田川

須磨浦

時雨

あつちの山ありとも

冬雨

あつちの山ありとも

落葉

あつちの山ありとも

あつちの山ありとも

あつちの山ありとも

あつちの山ありとも

あつちの山ありとも

あつちの山ありとも

あつちの山ありとも

あつちの山ありとも

柏木の葉も 霜のせいもあり 木枯れするもの
 葉の緑も 霜のせいもあり 木枯れするもの
 水枯れするもの 霜のせいもあり 木枯れするもの
 葉の緑も 霜のせいもあり 木枯れするもの
 水枯れするもの 霜のせいもあり 木枯れするもの
 葉の緑も 霜のせいもあり 木枯れするもの

名所

紅葉のせいもあり

お世

木枯

霜のせいもあり 木枯れするもの
 こころのせいもあり 木枯れするもの
 のせいもあり 木枯れするもの
 をのせいもあり 木枯れするもの

残菊

ねのせいもあり 木枯れするもの
^{本集} ねのせいもあり 木枯れするもの
 ねのせいもあり 木枯れするもの
 ねのせいもあり 木枯れするもの

隆尹

霜のせいもあり 木枯れするもの

霜のせいもあり 木枯れするもの
 霜のせいもあり 木枯れするもの
 霜のせいもあり 木枯れするもの
 霜のせいもあり 木枯れするもの

霜

霜のせいもあり 木枯れするもの
 霜のせいもあり 木枯れするもの
 霜のせいもあり 木枯れするもの
 霜のせいもあり 木枯れするもの

実惟

氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき
 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき
 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき

冬月

^{後拾五} 氷のきき ^{後拾六} 氷のきき ^{後拾七} 氷のきき ^{後拾八} 氷のきき ^{後拾九} 氷のきき ^{後拾十} 氷のきき

表

氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき
 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき 氷のきき

氷のきき 氷のきき
 氷のきき 氷のきき
 氷のきき 氷のきき

ほどきまのすゝめいゝあつせりいぬかゝら夜とあつて
 さいしんはたはらひたてふかすまうしんはたはらひたてふ
 けいしんはたはらひたてふかすまうしんはたはらひたてふ
 うゆいあ夜とあつせりいぬかゝら夜とあつて
 ちるいあ夜とあつせりいぬかゝら夜とあつて
 ちるいあ夜とあつせりいぬかゝら夜とあつて
 ちるいあ夜とあつせりいぬかゝら夜とあつて

推柴

美あふぬ いれま ー ー ー ー ー
 とういほさこしめれきこしりれぬい ちよあす けいしんはた
 ぬれぬぬ けいしんはた 推のちよあす
 推のちよあす 推のちよあす 推のちよあす 推のちよあす
 推のちよあす 推のちよあす 推のちよあす 推のちよあす

名所 小野山 山 山本 山田里 山田里 常磐山 山

薪

ちよあす ちよあす ちよあす ちよあす
 ちよあす ちよあす ちよあす ちよあす

名所 ちよあす ちよあす ちよあす ちよあす
 ちよあす ちよあす ちよあす ちよあす

千鳥

けいしんはたはらひたてふかすまうしんはたはらひたてふ
 けいしんはたはらひたてふかすまうしんはたはらひたてふ
 けいしんはたはらひたてふかすまうしんはたはらひたてふ
 けいしんはたはらひたてふかすまうしんはたはらひたてふ

雪のふりかたは
 同様に雪のふりかたは
 雪のふりかたは
 雪のふりかたは

名所 有馬山 住吉のあし
 係系 住吉のあし
 雪王 住吉のあし

雲

雲のふりかたは
 雲のふりかたは
 雲のふりかたは
 雲のふりかたは

幾雁

幾雁のふりかたは
 幾雁のふりかたは
 幾雁のふりかたは
 幾雁のふりかたは

雪

初雪 深雪 山雪 杜雪 野雪 行路雪 関雪
 河雪 湖雪 海邊雪 島雪 都雪 庭雪 松雪
 竹雪 杉雪 檜雪 雪朝望

何雪 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

行路雪 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

雪の降りしきりては 雪の降りしきりては 雪の降りしきりては

湖雪

湖雪の雪は白く降り積る

信美注

海雪

海雪は波の白沫を指す

信美注

海雪は浪の白沫を指す

海雪の雪は白く降り積る

島雪

信美注

島雪は島の雪を指す

信美注

島雪は島の雪を指す

島雪は島の雪を指す

島雪は島の雪を指す

島雪は島の雪を指す

島雪は島の雪を指す

島雪は島の雪を指す

島雪は島の雪を指す

松雪

下ははき、ねもさあのか
まのちか、まのちか、まのちか
ねのちか、まのちか、まのちか
まのちか、まのちか、まのちか

竹雪

あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ

松雪

あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ

檜雪

あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ

雪朝望

あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ
あかひ、あかひ、あかひ

此の書は、
 徳川幕府の
 御用書生
 藤田鳴鶴の
 著述である。

鷹狩

鷹狩は、
 徳川幕府の
 御用書生
 藤田鳴鶴の
 著述である。

鷹狩の
 御用書生
 藤田鳴鶴の
 著述である。

炭多のりゆ。炭は海原の烟 烟のくちりり 海原のりゆ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ 炭のりゆはきまろしき
 とのりゆとよふ 炭のりゆのりゆに ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ

名所 小野山 小野山 小野山 小野山 小野山

常ね 尾上 植雄山 尾上 植雄山 尾上 植雄山

埋火 埋火 埋火 埋火 埋火 埋火 埋火 埋火

かゝりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 せんりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 トンカキ せんりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

はめりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ

埋火 埋火 埋火 埋火 埋火 埋火 埋火 埋火
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ

火火 火火 火火 火火 火火 火火 火火 火火
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ
 ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ ナルをけしきあそ

